

まえがき

ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム (Software Engineering Symposium, SES) は、情報処理学会ソフトウェア工学研究会が主催する旗艦イベントとして 2006 年から毎年 1 回開催されており、本年度で 9 回目を迎えることとなった。今回は、芝浦工業大学芝浦キャンパスにて 2014 年 9 月 1 日から 3 日までの 3 日間にわたり開催される。

ソフトウェア工学は総合的かつ実践的な学問分野であるため、基礎技術の開発と技術の実践とを独立して行っているだけでは十分な発展は望めない。理論研究に基づくソフトウェアの基本原則と過去の事例研究に基づく実証経験とを突き合わせ、研究者・実務者が密に連携し研究・技術開発を行う必要性が高くなっている。

今回の SES2014 では、このような問題意識に基づき、ソフトウェア工学の多様な技術分野に関して、産学の研究者・技術者・実務者間で活発な議論をできる場を提供することを目的とし、シンポジウム論文として 2 つのカテゴリ、研究論文、実践論文を募集した。研究論文はこれまでと同様に独創的な研究の成果を発表するもので新規性/独創性、有用性、正確さが重視される一方、実践論文は、ソフトウェア工学の実践事例や経験から得られた知見を発表するものであり、事例や知見としての有用性、正確さが重視される。実践論文には、研究成果を企業で実適用した事例の報告等、産学連携の取り組みの経験も含まれる。

研究論文はフルペーパー (10 ページ以内) が 25 件、ショートペーパー (6 ページ以内) が 5 件の投稿があり、実践論文はフルペーパー (6 ページ以内) が 6 件の投稿があった。各投稿論文に対して 3 名のプログラム委員による並列査読を行い、その結果をプログラム委員会にて慎重に議論した結果、6 件の研究論文フルペーパー、3 件の実践論文フルペーパー、15 件の研究論文ショートペーパー、2 件の実践論文ショートペーパーを採択とした。

本シンポジウムでは、これらのシンポジウム論文発表に加え、基調講演に芝浦工業大学工学マネジメント研究科 教授 國井秀子氏、株式会社 NTT データ 執行役員・基盤システム事業本部長・技術開発本部長 木谷強氏をお迎えし、ソフトウェア工学分野の強化に向けての新たな取組、高速開発を実現するソフトウェア開発技術に関してご講演頂くこととなっている。さらに、組込みソフトウェア設計検証、ソフトウェア品質データ分析のチュートリアルに加え、本年度新たに設置した技術セミナーとして、クラウドデザインパターン、ビッグデータ分析技術とそのビジネス活用、レガシーモダライゼーション実践に向けた技術開発に関する 3 つの技術動向紹介を予定している。

また、昨年度盛況であったポスター展示に関しても、16 件のポスター論文を採択しており、27 件のポスター展示を予定している。ワークショップに関しては、昨年に引き続きテーマを設定した議論の場として討論テーマを公募し、4 件のワークショップを開催する。ポスターやワークショップでの活発な議論を通じて、研究者と技術者・実務者が連携するきっかけが生まれることを期待している。

最後に、情報処理学会ソフトウェア工学研究会運営委員、情報処理学会事務局、本シンポジウムの企画、論文査読、その他さまざまな準備作業に関わってこられた皆様に深く感謝する。

SES2014 プログラム委員長	小林 隆志
SES2014 副プログラム委員長	大平 雅雄
SES2014 実行委員長	松浦 佐江子